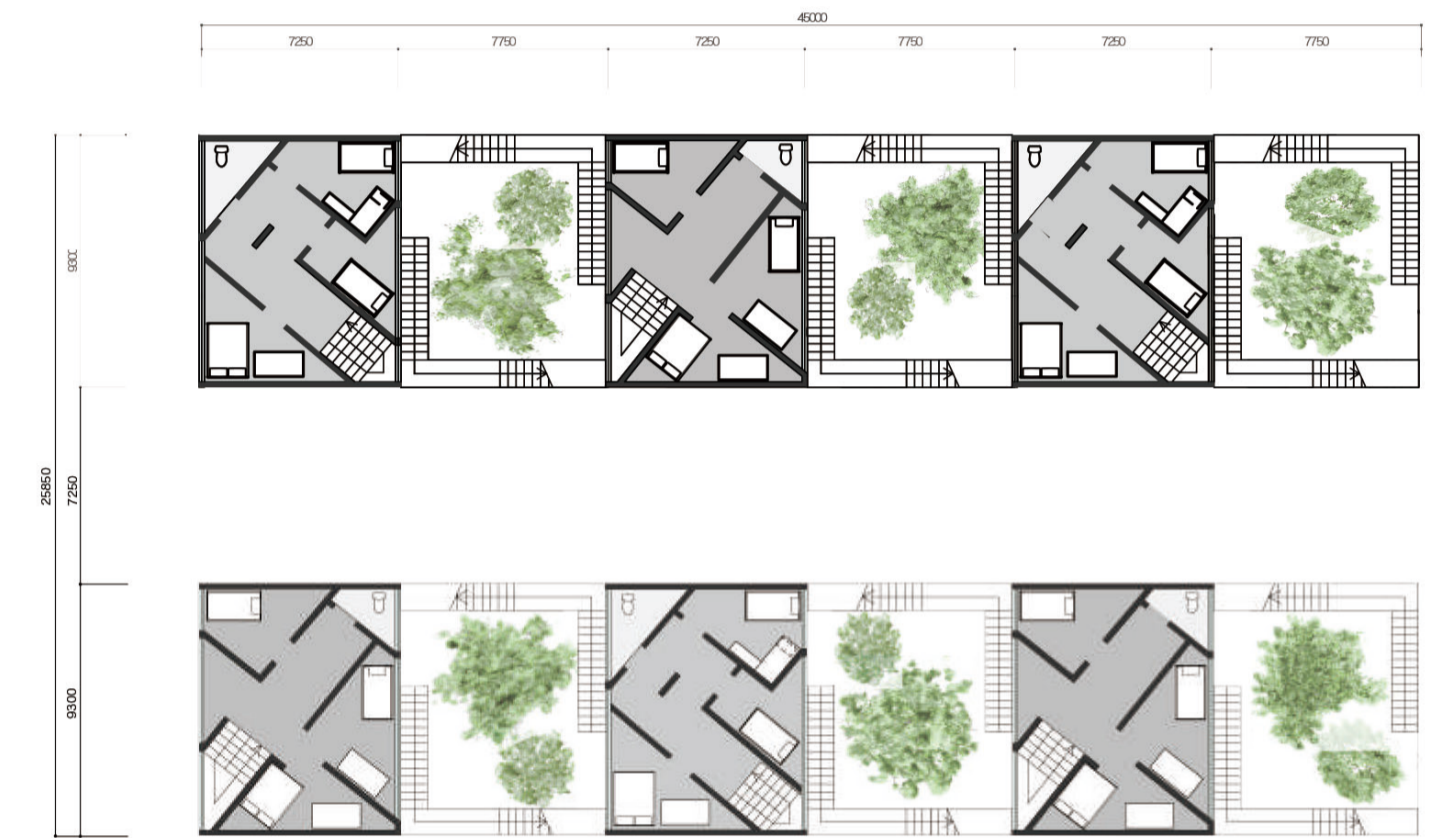
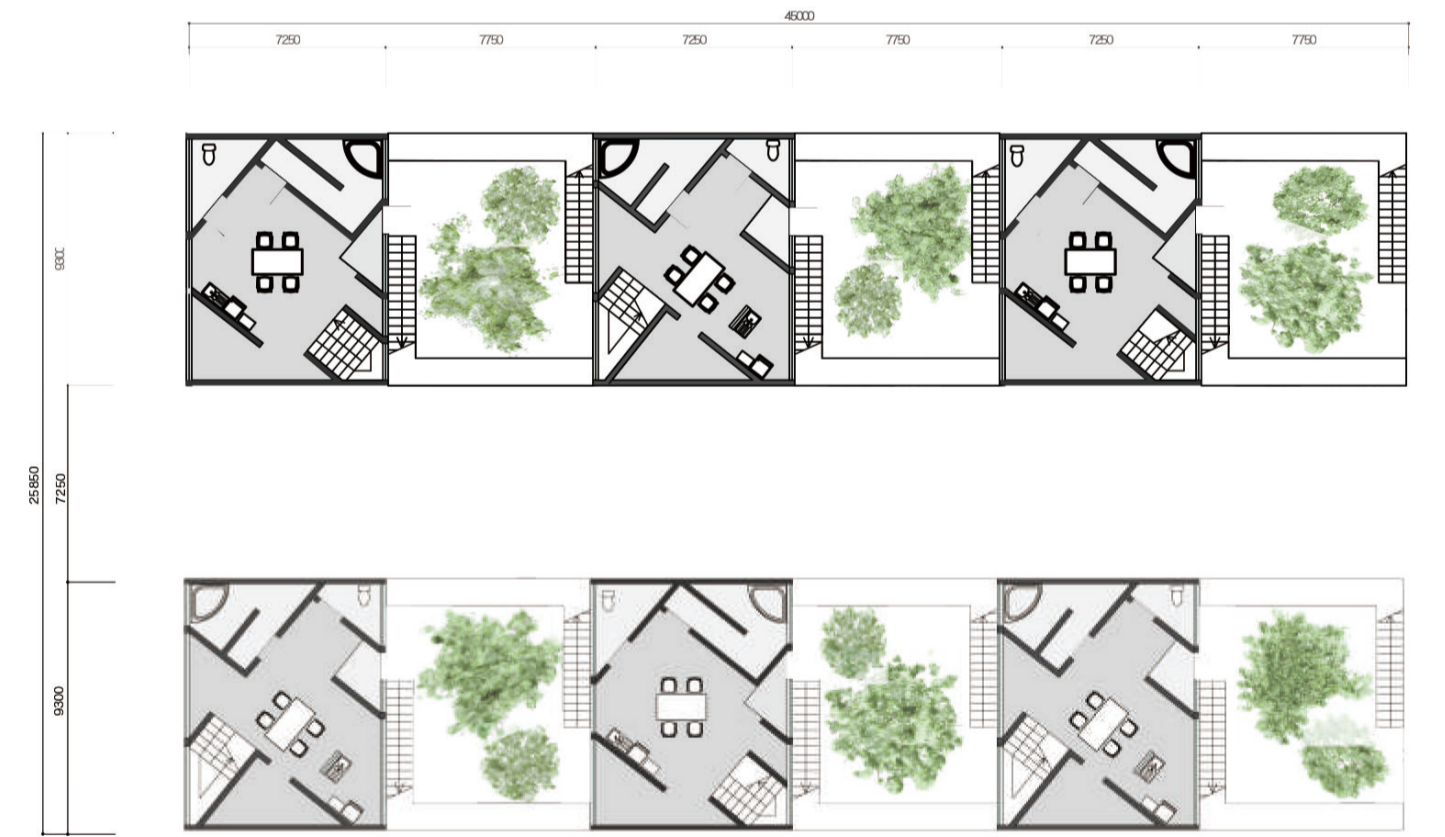


GL plan S=1/400



B1F plan S=1/400

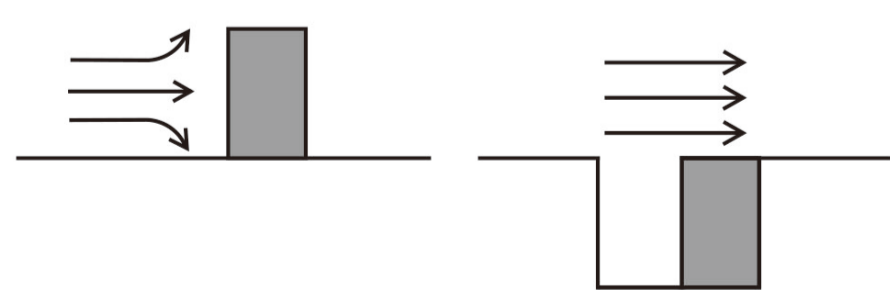


B2F plan S=1/400

GLのまち

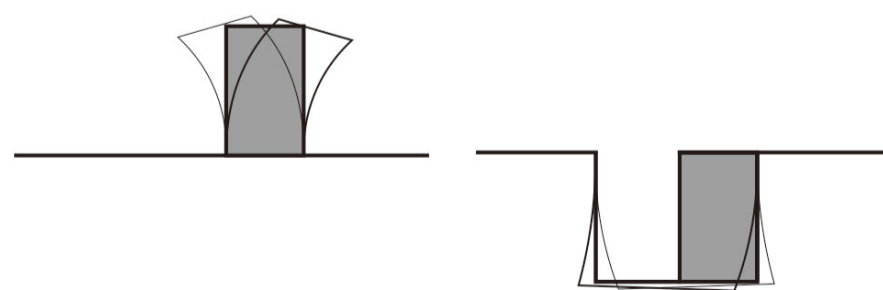
私たちは今、「異常気象」、「大規模地震」、「テロ/戦争」、「エネルギー問題」、「超過密なまちなみ」など多くの危機を抱える混迷の時代に生きている。これからの建築には、これらに対する確実なリスクヘッジが求められる。それへのひとつの回答が「建築の地下化」であろう。以下、それぞれの危機への対応を示してみる。

01 異常気象



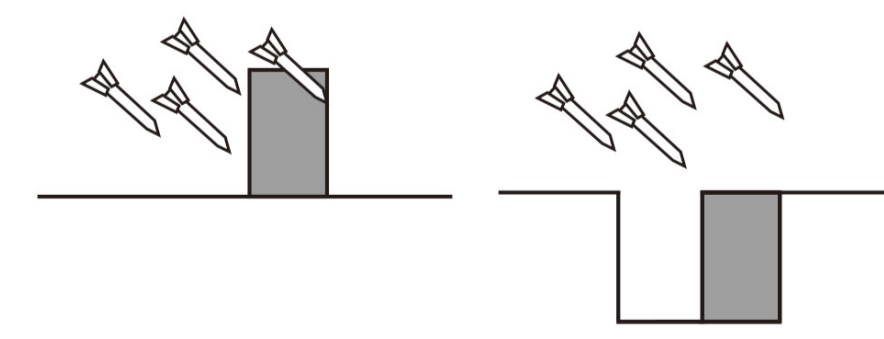
地下建築物は大型台風などによる超巨大風圧を直接受けることが少なくなることで、建築と人々への悪影響を大きく緩和することになる。

02 大規模地震



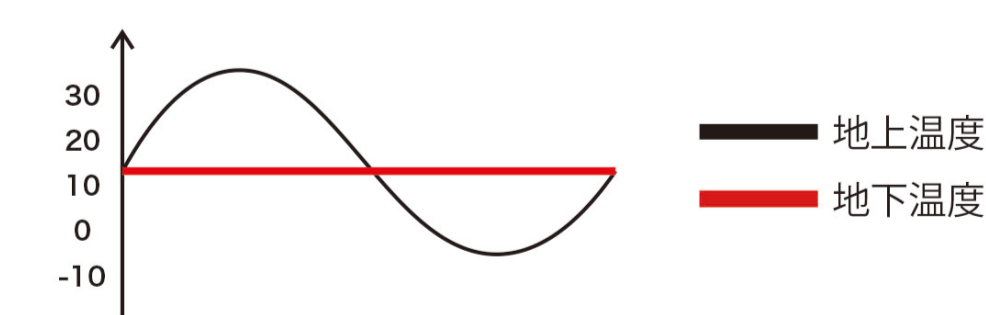
地震による地下の揺れは、地上の揺れと比較すると遥かに小さなものになり、建築と都市への損害を大幅に減じることができる。

03 テロ/戦争



テロや戦争によって引き起こされる爆発物やミサイルの爆風や火災の影響を、地下構造物は最小限に留めることが可能とする。

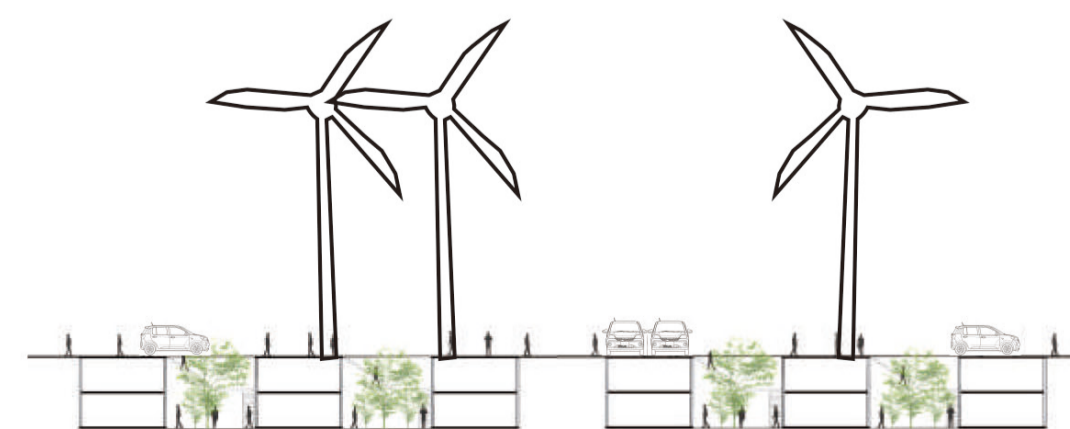
04 エネルギー問題



地下の温度はほぼ 15～20℃で安定しているため、寒暖を制御する為のエネルギー消費を最小限に抑えることが可能である。

05 過密なまちなみ

建築の地下化によって解放された GL 面は、植物の繁殖する場、再生可能エネルギーの場（風力発電・太陽光発電）、人々の憩いコミュニケーションの場、シェアサイクルの駐輪場、等として人々に広くシェアされ利用可能となる。



により、街並みに遠方までの驚異的な抜けが生じることで、「まちなみ」の概念に大きな変革が起こる。

「建築の地下化」によって、GLが建築と都市を守ってくれることになるのだ。ちなみに、地下建築による施工費の増大は、公的資金からの援助によって可能となる。現状のまま発生してしまう都市崩壊の損害に対する先行投資として扱われれば逆に国家的利益と考えることができる。